

ふれあい・いきいきサロン「ネクストステップ」

～幅広い選択肢でハッピーライフ～

熊本県立大学西森ゼミ/高齢・医療PJ 豆乳ヨーグルト

泉夏鈴/金森果歩/島本ひろ乃/中山さくら

地域課題の選択 ②「市民一人ひとりの幸福度を高めるためのまちづくりについて」

1. はじめに

現在、私たちはゼミ活動の一環で熊本県東区社会福祉協議会の職員の皆様と共に高齢者サロンでのe-sportの展開に取り組んでいる。実際に高齢者サロンへ訪問や、社協の皆様と研修会を行ううちに地域の高齢者の方や社協の皆様から、「地域の活動に参加する人が固定化されている」「地域住民のつながりが希薄化されているため、今後が不安である」「将来、住民同士で助け合いながら生活していきたい」「サロンに知り合いがいないと参加しにくい」といった声を耳にした。高齢者は、いずれ誰しもの通るライフステージであり、高齢者の幸福を追求することが、熊本市民の幸福につながると考えたため高齢者の幸福度に注目して、本政策を考えた。

2. 現状分析／調査内容

現在の熊本市の高齢者人口の推移を見てみると、2000年から2021年までの21年間で、高齢者の人口は約9万人増加しており、特に後期高齢者の増加が著しい。2025年までに高齢者の数は約20万人に達し、高齢化率は28.4%に及ぶと推測されている。

次に高齢者の単身世帯の推移を見てみると、高齢単身世帯は年々増加しており、2022年が最も高いことが読み取れる。このことから、高齢者の単身世帯は今後さらに増加するだろうと考えられる。

令和3年度、内閣府、高齢社会白書によると、60歳以上の高齢者に調査を行ったところ、「将来地域で暮らし続けたいか」という質問に対して、55%の高齢者が、「はい」と答えた。一方、「現在生きがいを感じ

ていないか」という質問に対して、「はい」と答えた人は、33%存在した。「はい」と答えた人の中には、「住民同士のつながりが希薄化している」という意見が挙げられた。生涯住み慣れた地域で暮らしたいと考えている高齢者は半数以上いるが、約3分の1の高齢者は地域とのつながりに不安を感じていると読み取れる。このことから、高齢者が住み慣れた地域で安心して住み続けるためには、日頃から地域間のつながりが必要と考える。

3. 課題に対する解決策と具体的な政策アイデア

上記の課題を解決し、「高齢者になっても生きがいを持ちながら住み慣れた地域で安心して暮らせるまち」を実現するため、政策案として高齢者と地域サロンを繋ぐマッチングアプリ「ネクストステップ」を提案する。

1つ目の機能は、“高齢者と高齢者サロンとのマッチング”である。現在高齢者が高齢者サロンの情報を知る手段は観覧版や掲示板、友人からの誘いが主であり、高齢者が得られる情報が少ないことが現状である。すると、高齢者の方はこの地区のサロンでどのような活動を行うのか知ることができないため、活動の幅が狭まるのではないかと考えた。そこで、高齢者と高齢者サロンが直接マッチングを行い、サロンが高齢者の方に「〇〇日に～を行います。」と発信することで、高齢者がサロンの活動について知る機会ができ、高齢者が興味のある活動の参加や、自身の予定が合う日程で行われている活動に参加できると考えた。

2 つ目の機能は、様々な地域サロンが報告した活動内容を一覧で見ることができる機能である。高齢者は自分の住む地域以外のサロンで行われた活動も知ることができると共に、興味のある活動を見つけやすく、参加へのきっかけに繋がると考える。

3 つ目の機能は、チャット機能である。サロンに知り合いがいないため、一人での参加が難しいと感じている高齢者は、チャット機能を通して事前に参加者同士でコミュニケーションをとることができる。この機能があることで、サロンに初めて参加する人や不安がある人も事前に相談ができ、気軽に参加しやすくなる と考える。

4 つ目の機能は、“アプリ内でのバスの予約機能”である。活動内容に興味があるサロンがあっても、距離が遠い・公共交通機関が行き届いていないという理由からサロンに行きたくてもいけないという事態が想定される。その問題を解決するため、高齢者をサロンまで送迎するためのバスの運行を考えた。事前にアプリ上で自宅の住所を登録し、迎えに来てほしい時間帯を指定することで、サロンまで送迎を行うという取り組みである。高齢者が自分の足で行くことのできないサロンの活動にも参加できるようになることで、高齢者の活動範囲が広がり、興味関心の幅も広がるのではないかと考えた。

実際に高齢者サロンへの送迎バスの実施を行っている事例として神奈川県川崎市や新潟県燕市の社会福祉法人の取り組みが挙げられる。「昼間空いているデイサービスの車を地域に活用させてほしい」という住民の意見のもと、社会福祉法人の職員が主体となり、サロンへの送迎バスの運行を行った。高齢者はサロンから自宅までを無料で利用することができる。この取り組みを行うことで、高齢者が気軽に地域へ出るきっかけになっている。この参考事例を踏まえ、サロンへの送迎バスの運行は実現可能性が高いといえる。

高齢者のスマートフォン所有率は年々増加しており、2018 年から 2023 年にかけて高齢者のスマートフォン所有率は 53%から 93%に上昇している。また、スマートフォン利用率は 50 代 91%、60 代は 73%である。このことから、高齢者へのスマートフォン普及率・利用率は高く、今後さらに増加すると予想される。

しかし、アプリの展開に伴い、一部の高齢者へスマ

ートフォンが普及していないことが課題として挙げられる。その原因として、「必要性がわからない」「操作方法がわからない」といった意見が挙げられる。この課題解決のために以下のアプリ普及方法を提案する。

アプリの普及方法として、ネクストステップ体験型ツアーを挙げる。ネクストステップ体験型ツアーとはアプリの説明から、サロンの選択、参加までの流れを実際に体験してもらうことで、アプリを身近に感じてもらう、高齢者自身にアプリを使用するイメージをつかんでもらう体験である。実際の手順としては、まず、体験型ツアーの告知を、高齢者の利用者が多い、医療機関や、スーパー等に掲示し、参加者を募集する。そこで、ツアーに興味を持った高齢者を対象に、簡単なスマートフォンの説明、具体的なアプリの説明を行うオリエンテーションを開催する。実際に、ネクストステップを利用して、実際にほかの地域のサロンの活動に参加してみる。この体験ツアーを継続的に取り組み、最終的には高齢者自身で、ネクストステップを活用していくことを期待する。

4. まとめ・今後の展望など

本政策を実施することで、誰もが好きな時に興味のあるサロン活動に気軽に参加できるきっかけとなり、高齢者と地域の繋がりが強まると考えられる。他にも生活意欲の向上や認知症予防、地域内での互助の精神の養成、高齢者のデジタルデバイドの解消など、高齢者自身と地域の両方に対して複数の効果が期待できる。今後も更に進行を続ける高齢化の中、今回提案した政策を通して、誰一人取り残さず、全ての住民が高齢者になっても生きがいを持ちながら住み慣れた地域で安心して暮らせる町づくりの実現に尽力していく所存である。

参考文献

「内閣府 令和4年版高齢社会白書」

https://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=1303&sub_id=5&flid=138683

「地方厚生局 支え合い・助け合いによる高齢者の移動支援について」

https://www.city.kumamoto.jp/common/UploadFileDsp.aspx?c_id=5&id=1303&sub_id=5&flid=138683